



Face to Face NO.2

特定非営利活動法人 T I C O



12月1日、神戸市にて消防車および消防機材の積み込み作業を行いました。今回も多数のボランティアの方々が協力してくださいました。

消防車とこれらの機材は全国の支援者から寄贈されたもので、12月11日に神戸港を出港しました。ザンビア・ルサカ市での火災現場での救急救助活動に活用されます。



チノノ女性の会がローン完済第1号。帳簿を手にニコリ。
(チベンビ農村開発ローン)



わらびの会主催のユズ狩り。今年は大豊作でした。(11月14日・徳島県木屋平村)

<主な記事>

- ・ WAHEプロジェクト通信
- ・ 救急隊整備プロジェクト通信
- ・ ゆず狩り
- ・ 阿波西高校2年1組が募金活動

TICOは保健・医療・農村開発などの分野を中心にアフリカのザンビア共和国の支援活動を行っている NGO (非政府組織) です。世界の中の日本を考え、それぞれが自分にできる国際協力を実践していくために 1993年に任意団体として設立され、2004年9月に特定非営利活動法人(NPO法人)となり活動を続けています。

地球規模の問題に苦しむ人たちの自立支援を共同作業により実施し、そこで学んだ経験と知識を地域の人々と分かち合い、私たちの生活を振り返るとともに地域の精神文化の高揚に寄与することを目的としています。

アフリカのエイズ問題、現状と戦略

(マラウイでのワールドビジョンとの合同調査より)

T I C O 代表 吉田 修

11月に外務省の協力を得てマラウイ共和国ムチンジ県でのエイズ対策プロジェクト形成のための調査に行ってきました。サハラ以南のアフリカは、もともと最貧国が集中する、世界でもっとも悲惨な地域です。その上にエイズが追い討ちをかけています。

[2002年データ]

AIDS に感染している人	4,200万人 (その2/3はアフリカ)
AIDS に感染している子供	320万人
AIDS でこれまでに死んだ人	2,500万人 (その1/4は子供)
AIDS によって母親または両親を亡くした子供	1,400万人

	マラウイ	ザンビア
成人のHIV感染率	15%	21%
AIDS に感染している子供	6万5千人	15万人
AIDS で死亡する子供(年)	12,000~ 22,000人	
5歳までの死亡率	183人/千人	192人/千人
孤児の数	94万人	87万人
平均寿命	38歳	32歳

マラウイ、ザンビアともに人口約1000万人

マラウイの行政側システムは、国、県から農村レベルまでエイズ対策調整委員会が組織されています。国家戦略、2008年までの年次計画、ガイドラインや研修のカリキュラム作成、中央レベルでの人材育成などが、国連機関や援助国の支援で進められています。ただし、末端で機能しているとは言いがたく、始まったばかりという状況です。国家戦略の柱は次のようなものです。

(1) 予防

- 行動変革と安全なセックスの推進(知識の普及、コンドーム使用)
- 性感染症のコントロール
- VCT(テストキットの普及、カウンセラーの育成、プライバシー確保)
- 母子感染予防(安全な分娩、抗ウイルス薬短期投与、産婆の研修と機材供与、母乳か人口栄養かの情報提供)

(2) Care and Support

- 抗ウイルス剤による治療の普及(莫大

な費用が必要)

- コミュニティーによる home based care や孤児へのサポートの推進
- 伝統医療の見直しと活用

(3) 人材育成

最近私の知人の子供が亡くなりました。母親の悲しみはとても言葉にはできないでしょう。この悲しみに上記の数字を掛け算して下さい。また、反対に幼い子供を貧困のどん底に残して死んでいく親の無念も想像して下さい。

T I C O も A I D S 対策に全力で取り組むことになり、外務省への申請を計画中です。詳細は決まり次第報告します。ぜひとも応援をおねがいします。

吉田 修 (よしだ おさむ)
1958年生まれ、外科医。青年海外協力でマラウイに派遣され、その後AMD Aに参加しイラン、モザンビーク、ルワンダなどで救援活動を行う。現在、徳島県山川町の「さくら診療所」で地域医療を実践しながら、代表として「T I C O」を運営している。



WAHE プロジェクト通信

TICO ザンビア事務所 江橋裕人

WAHE (ワヘ) とは？

Water(水)、Agriculture(農業)、Health(健康)、Education(教育)の領域をカバーしながら農村の生活水準向上を狙う TICO のプロジェクト。TICO は 2002 年ザンビア南部州にて飢餓緊急援助を行なったがそこで得た教訓とは「緊急援助の限界」と「飢餓をなくす為には農村に根本的対策が必要」との認識だった。いくつかの候補地から安全性や信頼できるパートナーの存在等の観点から支援地域をチペンビとカルブウェに決定した。



Chipemba

中央州チペンビ地区

中央州カルブエ地区

Karubwe

ザンビア共和国

チペンビ

- ・農村開発ローン
- ・牛糞浴槽再生
- ・アグロフォレスト
トリー



小規模農村開発ローン

事業資金の無利子貸し付け・研修指導を行い、農民グループの小規模起業を支援する。グループそれぞれを資金面で支援する日本人サポーターも同時に募集。

カクンバ農民組合

足踏みポンプ導入による菜園拡大事業



「次はトマトにしようと思うんだ」
「タマネギの方がいいんじゃない？」

8月18日(水) 晴れ

菜園は立派。仕事は一生懸命やっている。10人のメンバーが5人になったが、ポンプが役に立っていればこれもありかな。

9月1日(水) 晴れ

ローン支払い受領。お金がないことを訴えていたが、約束額の

半額だけもらう。

まとめ 最終評価ワークショップ開催予定。11月中旬頃行いたい。

チノノ女性の会

養鶏事業



ローン完済第1号！

8月18日(水) 晴れ

前回入荷した雛102羽は3羽死んだだけ。その内88羽が売れていた！嬉しい誤算。

8月25日(水) 晴れ

前回の鶏は完売とのことで売り上げ記録を確認させてもらおうと、また「後払い」で売っていたことが判明！お金がないから払えないと言われたらそれまでなので後払いでは絶対売ると口をすっぱくしているのだが。

10月5日(火) 晴れ

最後の支払い受領。ローン完済！まだ問題は多いが、完済は素直に嬉しい。ザンビア養鶏業者がコンゴ輸出を増やしているので国内供給不足という話があり12月まで雛が手に入らず停滞を余儀なくされている。

まとめ ローン支払い完了。後払いで売った分の回収は終わっていない。今後、マーケティングや経理復習ワークショップもやりたい。

ツェツェ村自治会

手押しポンプ設置による井戸再生事業



ポンプのおかげで菜園は順調

8月25日(水) 晴れ

やっと魚養殖を始めるらしいのでナマスモ氏(チペンビ農業短大の魚養殖担当)にモニター

を依頼に行く。

10月27日(水)晴れ、暑い
魚養殖場の為の黒土運搬手段だが、ガソリン代負担ならTICOのトラック貸与可能性ありと伝える。菜園のトマトとキャベツが順調。

まとめ ポンプは問題なく稼働し生活用水として役立っている。菜園は順調。雨季の前に黒土確保できれば良いが。

チレンガレサ有志の会

搾油機によるヒマワリ油精製事業



油が出てきたぞ！

10月27日(水)晴れ、暑い
ヒマワリの種50キロを購入し油を絞るが予定の半分しか油は取れず。種の質が悪く、油があまり含まれていないという説明。種を買うのに16万クワチャ使って、売り上げが12万クワチャじゃ、赤字！今後はヒマワリの栽培も自分たちですることを考えているようだ。

まとめ ヒマワリの種を購入し食用油を精製した。16万クワチャで種を購入して売り上げは12万クワチャだが。とにかく今後はひまわりの栽培から自分たちでやる方針。

ムウィナの丘協同組合

ザンビア風コンビニ事業



コツコツとやっていますよ

10月5日(火)晴れ

ローン支払いとお礼状を受け取る。暑く、乾燥した一日。早く雨が欲しい。

まとめ 順調に経営している。特に問題なし。

ギルモア祝福の保育園

保育園整備事業



仲むつまじいムサンジェ夫妻

9月1日(水)晴れ

プロジェクトマネージャーのムサンジェ夫妻に会う。今後ワークショップ、資材購入を進めて支援を軌道に乗せたい。

10月5日(火)晴れ

経理ワークショップ開催。

10月13日(水)雨のち曇り

椅子・机・黒板購入の相談を受ける。大工ができる人間を探す必要あり。

10月27日(水)晴れ、暑い

村の大工から見積もりを取ることで同意。ワークショップも

やったので遅れずに進めたい。

まとめ 机・椅子・黒板作成の見積もりを取っている。確認次第すぐに注文の予定。

牛薬浴槽再生事業

朽ち果てたままになっていた牛薬浴槽を再生し家畜を疫病から守るプロジェクト。ムパタマトとチルクツの2箇所で開催中。ザンビアでは牛は非常に大切な資産。

ムパタマト

10月15日(金)

特に大きな問題なし。

10月29日(金)

薬浴槽運営委員の改選選挙を行った。小規模ながら地道に続いている。口蹄疫が広まっているようで、それが心配。

チルクツ

10月15日(金)

特に大きな問題なし。継続的に運行中。

アグロフォレストリー

チベンビ農業短期大学と連携し、有用樹木の普及を行う。

9月29日(水)晴れ

チベンビ農業短大訪問。サンヘンプという有用植物(そのまま肥料となる)の説明を受ける。



10月15日(金)

苗床用の屋根素材(半透明)を

探しているが、いまだ見つからない。昨年の活動で増やした種を農民たちに配らなくてはいけない。さて、どうやるか。

カルブエ

・菜園プロジェクト



菜園プロジェクト

使用不能だったポアホール(井戸)の修理により野菜農園への水供給を可能にし、並行して農民に野菜栽培法などのセミナーを開催。

9月15日(水) 晴れ

菜園運営についてコミュニティメンバーと話し合い。



9月26日(日) 晴れ

カリフラワーとタマネギは完売、キャベツは生育中。しかしブロッコリー、トマトは全然育っていない。両方に言えるのは水が不十分なことか。支援した側としてうまく育たなかった例を見るのはやはり悲しい。

10月1日(金)

ブロッコリー、トマトは諦めて代わりにキャベツ、レイブ、タマネギがその場所に植えられている。

予約している水撒き用タンク

設置業者は3日続けて現れず。ザンビアとはいえ頭に来る。

10月11日(月) 曇り

タンク設置業者はまだ来ない。タンク自体は届いているので設置されることは間違いなしと思うしかない。



このタンク早く取り付けてよ、業者さん

10月13日(水) 曇り

タンク設置業者がカルブエに到着したとの無線を受け、急遽訪問。到着すると設置作業をしている。しかしスタンドの長さが注文した物と違う、ポンプ水漏れにも対応していないなど問題だらけ。今後も厳しく作業を監視せねば。

10月14日(木) 曇り

ここ数日の雨で土が軟らかく、気温も低めなので農作業には最適なようだ。乾燥した暑さの中の水撒よりは楽そう。タンク設置も見えてきてモチベーションも上がっているようだ。



やっぱり涼しいと仕事もはかどるわ

10月23日(土) 晴れ

タンク設置とインターアクトクラブからの靴譲渡への感謝式典を住民が開催してくれた。参加者は200名以上。TICOからは江橋と山田が出席。木陰の式典場で村長らのスピーチ。ありがとう、このタンクのおかげで楽になりますという内容。昨年からのTICOの関わりも詳細に話して下さった。プロジェクトを行うと言っても所詮は人と人の付き合いなので、こういった認知度を高める行事も大切にしたい。菜園サポートの鍬、シャベル引渡し。



お礼の歌と踊り



後方にあるのが設置されたタンク

10月28日(木)

タンク水漏れ修理がようやく完了。これでタンクの件は一段落なので農業技術改善、経理ワークショップを考えたい。

救急隊整備プロジェクト通信

TICO ザンビア事務所 五十嵐 仁

ザンビアにはこれまで日本で言う119番の救急隊というものが存在しなかった。2002年10月から本格化したこのプロジェクトは人口200万の首都ルサカ市の救急隊の整備を目的としている。TICOと警察庁が協力しボランティア、警察官、消防官を媒介に救急隊の整備を行っている。このザンビア唯一の救急隊が24時間体制でルサカ市の救急救命活動を担っている。より迅速に現場に到着できるよう、分駐所の開設を現在進めている。



8月16日 交通事故

交差点で無理に右折しようとした車両が他2台の車両を巻き込む事故が起こり、救急隊が出動。救急隊の存在を市民が知ることになってきています。



8月29日 火災出動

TICOの救急隊はザンビア唯一の救急救助隊。様々な緊急事案に対応するにはいけません。乾季の8月は火災の月。ルサカ市内でも1日に5件の火災が発生するなど救助隊の消火活動への参加も強いられました。

13階建てのビル火災では、階段を13階まで4往復し、隊員も私もくたくたでしたが、消防局員と協力してなんとか鎮火させるなど、救急隊員が活躍しています。



火事だ！火事だ！



9月10日 分駐所開設

9月の初旬より新たにルサカ市東南部に分駐所を開設しました。まだ電気がないことから、月、木、金、土の昼間のみ開いています。

9月29日 2次災害

2時半頃、国道で大型トラックが横転との報告が入り、指令車に飛び乗り現場へ直行。大型トレーラーが完全にひっくり返し、1名が運転席とダッシュボードに挟まれていました。

ジャッキをあるだけかき集め、少しずつ車体を上げ、石を入れてはまた上げを繰り返し、やっと隙間ができたので油圧救助機材でその隙間を少しずつ開けていきました。腕が抜け、腹部が抜け、後はもう火事場の馬鹿力で市民もいっしょに彼を引っ張り出しました。すぐに救急車で病院へ搬送。

一件落着です。ホッとすると帰る途中、また県警から一斉指令が

入りました。「先ほどの事故現場で更に大型トレーラートラックに乗用車が衝突。救急隊は至急現場に戻れ！」。信じられませんでした。二次災害です。全ての車両を再度現場へ急行させました。



ひっくり返ったトレーラー（翌日撮影）現場に到着すると、同じ現場で大型トレーラーが今度は横倒しとなり、乗用車の乗員4名がけがをしていました。救急車のスペースが足りないので軽傷者は指揮車へ乗せ全員病院へと急行。午前6時帰りました。今日は寝ないで22時間の勤務だったせいか、かなり疲れ果てました。でも、やはり疲れとともに残ったのが充実感です。やったぞ。クレーンなしで救出できた。普通は見捨てられていたケースで、翌日の朝刊にまた死体の写真が出ていたでしょう。救出成功の一報を交通課員が県警に入れた際、県警指令からも拍手が無線で届きました。

私自身現場で考えそして学んでいます。これらの技術を隊員に伝え、現場の指揮官を警察の中に作っていかねばと痛切に感じました。

10月1日 副大臣視察

ザンビア大統領府の防災担当副大臣が救急隊本部へ訪問し、TICO 救急プロジェクトの活動を視察しました。



隊員たちが
お出迎え

副大臣いわく、「これまでいろいろな団体の活動を視察してきた。すごい団体だという前評判を聞いて期待して行くと実際そうでないことがよくある。だが今日訪問させてもらった救急救助隊は違う。本当に仕事をしていると感じた。予想を裏切らなかった！」とコメントを出してくれました。この模様はザンビア国营放送の夜のニュースでも放映されました。



10月2日 分駐所に電気が来た

本日、やっと市内東南部分駐所の電気通電工事が終了し、電気が来ました。電気代はルサカ市が支払いをしてくれることになっています。

TICO 国内活動 (2004年10、11月)

<2004年10月>

- 5日 木屋平中学校国際理解講座へ講師派遣 (吉田修代表)
- 13日 徳島県立城西高校国際理解講座へ講師派遣 (福土庸二さん)
- 24日 鳴門ライオンズクラブ「1000 回例会記念事業」へ講師派遣 (吉田修代表)
- 23日 地球人カレッジ「マーシャル諸島スタディツアー報告・日本軍の戦跡と水爆実験のヒバクシャを訪ねて」(武市秀男さん)

<2004年11月>

- 3日 わらびの会とユズ狩り
- 6~18日 吉田修代表がマラウイのエイズの現状についての現地調査
- 9日 木屋平中学校国際理解講座へ講師派遣 (福土庸二さん)
- 14日 ユズ狩り(わらびの会主催)
- 14日 高松聖ヤコブ教会へ講師派遣 (福土庸二さん)
- 17日 橋本浩一さん (TICO スタッフ) が JICA シニア海外ボランティアとしてキルギスへ出発
- 20日 地球人カレッジ「神々の麓まで~ヒマラヤ山麓救急車輸送記録~」(三村和生さん)
- 25日 森山小学校国際理解講座へ講師派遣 (福土庸二さん)
- 26日 日本外国語専門学校へ講師派遣 (五十嵐仁さん)



TICO 会員の田中直康さんが事務局にパソコンを寄贈して下さいました。早速事務作業等で大活躍中です。今号の Face to Face もこのパソコンで編集しました。ありがとうございます!!

ユズを持って国際協力! ~わらびの会ユズ狩り

今年で7年目となるユズ狩り(わらびの会主催)が11月14日に徳島県木屋平村で行われました。当日は雨が心配されましたが、幸い晴れ間も見える暖かい日となり約30人の参加者が集まりました。今年は豊作で夕暮れまでには全てを収穫する事ができないほどでした。昼食にはととろの会の皆さんが作ったカレーが振舞われました。

「わらびの会」は徳島県木屋平村のボランティアグループ。人手不足や高齢化などのために放置されていたままになっていた果樹園のユズを収穫し、収益金を貧困で苦しむザンビアへ



TICO を通じて毎年寄付してくださっています。

豊作過ぎて
獲りきれないよ!

ありがとうございました (敬称略)

寄付をくださった方々

田中純子 笠井エイ子 大倉三和 美馬安子
入交秋子 阿波西高校 2 1 HR 岩田祥三
齋藤陽子 篠原澄江 わらびの会 ヒダノ
修一チャリティーコンサート for ザンビア
ヒダノ修一チャリティーコンサート募金箱
六車ハルエ 城西高校 JRC 五十嵐仁 吉
田修 鳴門ライオンズクラブ 篠原弘子 田
中直康 高松聖ヤコブ教会 西村栢子 さく
ら診療所募金箱 日本外国語専門学校

会費を継続して払ってくださった方々

大倉三和 美馬安子 中本祥二 鏡登志子
篠原幸隆 松田恵美子 久保真一 渡部豪
遠藤千鶴 井口千陽 佐藤慶子 中谷加奈子
新たに会員になってくださった方々

吉村正

(2004年9月1日から11月30日までの事務局入金分: 順不同)

TICO への入会方法

会員となって資金面から TICO の活動をサポートして下さるかたを募集しています。入会ご希望の方は郵便振替用紙に所定の年会費を納入して下さい。インターネットの TICO ホームページからも入会申し込みが可能です。会員の方には TICO ニュースレター『Face to Face』を毎号送付いたします。

個人賛助会員: 12,000 円 / 学生賛助会員: 6,000 円
団体賛助会員: 15,000 円 / 個人正会員: 12,000 円

(通常は賛助会員でのご入会をお願いしています。総会での議決権を持つ個人正会員を希望される方は事前にご連絡下さい)

振込先: 郵便振替口座 01640-6-37649

振込先加入者名: TICO

Eメールアドレスをお知らせいただいた方には T I C O の各種イベント情報をメールにてご連絡申し上げます。T I C O の活動は皆様からの会費やご寄付によって支えられています。会費の納入がお済みでない会員の方は、納入下さいますようお願いいたします。なお、郵便口座からの「年会費自動引き落とし」もご利用いただけます。事務作業軽減のためにも、ご協力お願いいたします。

阿波西高校 2 年 1 組が募金活動

阿波西高等学校(徳島県阿波町)2年1組福祉ボランティアコース(担任:田上佳美教諭)の生徒らが TICO 事務局を訪れ、チベンピ農村開発ローン・保育園整備事業への支援金1万円を寄付してくださいました。この寄付金は9月の阿波西高校の文化祭で生徒たちがザンビアの現状についての展示発表を行った時、同時に募金箱を設置して集めてくれたものです。

きっかけは今年5月に国際理解教育の授業で TICO の吉田代表の話聞いて、生徒たちがザンビアの現状に興味を持ったことです。もっと詳しく調べて文化祭で展示発表と募金集めをしようということになり、「漠然と寄付するよりも、目的がはっきりしているし、小さな子供たちが喜んでくれれば」ということで農村開発ローンの保育園整備事業に寄付してくれることになったそうです。



ザンビア版人生ゲームでザンビア人の人生を疑似体験している様子(今年5月の授業より)

お知らせ

講師派遣

TICO では学校の総合学習の時間などでの国際理解教育、開発教育の講師派遣をおこなっています。お問い合わせは T I C O 事務局まで。

チベンピ農村開発ローン支援者募集

事業 No.6 養鶏事業

(カサカ子供の家)

事業 No.8 養鶏事業

(サングワボクラブ)

支援金一口5000円。各グループから支援者の方に定期的に手紙が届きます。

T I C O ホームページで TICO からの最新情報をご覧いただけます!!
<http://www.nmt.ne.jp/~zikomo/>

募金のお願い

TICO のザンビア支援活動は皆様からの寄付金や会費により支えられています

郵便振替口座 01640-6-37649

振込先加入者名: TICO

TICO ニュースレター Face to Face 第2号 2004年12月発行

発行人: 吉田 修 編集担当: 登 健太郎

【TICO 事務局連絡先】

〒779-3403 徳島県吉野川市山川町前川 212-6 電話: 090-7786-3193 / FAX: 0883-42-5527

TICO ホームページ: <http://www.nmt.ne.jp/~zikomo/> e-mail: zikomo@nmt.ne.jp